

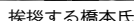
天心記念五浦美術館、大津漁業協同組合直営市場食堂を視察した。

島根県漁港漁場協会（会長・久保田章市浜田市長）は、6月12日、松江市の「松江エクスセルホテル東急」において、令和7年度通常総会を開催した。久保田会長が「昨年10月に開催された第3回全国漁港漁場大会では、本県から十九名が参加し、決議を受けて国会議員への要請活動を実施した。新たな取組として、	第74回全国漁港漁場大会への参加や、漁港漁場漁村担当職員研修会の開催、磯根検査所の増強に關する現地視察会などの令和7年度事業計画及び収支予算、役員の見選を提案しており承認した。
松江市島根町沖での漁場調査を企画し、会員の漁整備を支援した。また、	役員の見選は理事一名の退任に伴うもので、新たな理事に橋本秀治益田市産業技術部長が選任された。
松江市島根町沖での漁場調査を企画し、会員の漁整備を支援した。また、	全国漁港漁場協会からは田中郁也会長が出席し、挨拶をした。

(一社)水産土木建設技術センター



橋本牧氏の叙勲 を祝う会を開催



保全型養殖の実現に向けて『ながさきBLUEエコノミー』の取り組み」と題した講演があり、参加者は熱心に聴講した。

衛藤征士郎漁業・港漁場漁村整備促進議員連盟最高顧問、武部勤

顧問・漁港漁場新技術研究会顧問の中締めにより盛衰裏に終了した。

橋本氏は、政府が4月29日付で発表した令和7年春の叙勲において瑞宝中級章受章の栄に浴した。

要職を歴任。漁港行政の

橋本氏は、昭和53年に当時の農林省に入省、外務省在ベル・日本国大使館、等書記官、長崎県水産部次長、漁港漁場整備部整備課長、計画課長、漁港漁場整備部長などの要職を歴任。漁港行政の

衛藤氏（上段左端）、武部氏（下段左端）と写真に納まる橋本夫妻

漁漁場新技術研究会の会長としては、国や地方公共団体の漁港漁場整備関係の技術的課題の解決に向けて、水産公共関連民間技術の確認審査・評価事業の立ち上げ、水産庁との連携会議の設置など漁港漁場整備に係る新技術に関する研究・開発・普及に精力的に取り組むなど、水産庁勤務から現在に至るまでの長きにわたり、全国の漁港・漁場・漁村の整備に尽力している。

（公社）全国漁港漁場協会と（社）漁港漁場新技術研究会は7月11日、東京都内で橋本牧氏の叙勲を祝つて会を開催した。

冒頭、田中郁也全国漁港漁場協会会長と中村隆水庫庁漁港漁場整備部長が挨拶した後、竹安正雄港漁場新技術研究会副会長・セニヤ海洋サービス株式会社の代表取締役社長

・株式会社デー&設計社長ほか120余名が参加し、お祝いのスピーチでは初めて聞くエピソードが披露されるなどで盛り上がった。

最後に、本人の挨拶、花束・記念品贈呈の後、坂井淳全国漁港漁場協会の

(一社)漁港漁場新技術研究会



く、生産環境整備にさらに力を注いでいかなければならない。当研究会としても、これまで力を入れてきた国土強靱化、施設長寿命化、衛生管理の高度化、省エネルギー、各専門部会、水産庁の班、各市町村、水産庁の班、長クマガが、緒になつて議論して、新技術の導入を推進し、その成果を水産庁も全国広めていくこと

うというものである。このように各専門部会の知見を施策に活かしていることに感謝申し上げたい」と述べ、また、昨年度は、衛生管理研究部会がインフルエンザナンソウ大賞の優秀賞を受賞したことも触れ、荷さばき所の機能保全点検マニュアルの作成などの取組は漁港の衛生管理を進めていく上で欠かせないとの見解を述べた。

その後、平井豊朗部会長を議長として議事に入

場関係新技術の研究・開発、普及を進めるために、「第9回技術報告会」を東京神田で開催した。

また、海外における漁港漁場整備の状況と関連する技術的ニーズの把握等を行うために、「漁港技術海外交流調査」をタイ王国で実施した。

令和7年度においても、引き続き同様の体制で漁港漁場関係新技術の研究・開発・普及を進めていくとしている。漁港漁場関係民間技術の確立審

議する部破氏

案を原案通り承認した。

令和6年度事業は、9研究部会・15専門部会の体制で漁港漁

場関係新技術の研究・開発、普及を進めるために、「第9回技術報告会」を東京神田で開催した。

また、海外における漁港漁場整備の状況と関連する技術的ニーズの把握等を行うために、「漁港技術海外交流調査」をタイ王国で実施した。

令和7年度においても、引き続き同様の体制で漁港漁場関係新技術の研究・開発・普及を進めていくとしている。漁港漁場関係民間技術の確立審

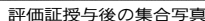
と云う。特別事業を執行して、総合終了後開催された特別講演会では、海洋工学の権威である磯部雅彦高知工科大学、東京大学名誉教授が「気候変動を踏まえた海洋防災の方向性」と題して講演した。これまでの海洋保全の取組、津波の二段階防、最大クラスの津波の発生メカニズム、三重防護による高知港・高知市の津波対策、津波防災の今後の課題、高潮の二段階防災と気候変動への適応策、最大クラスの高潮への対策、海洋保全の将来に向けて、かみ辞いでこの説明頂き、気候変動に対応した今後の漁港施設整備への貴重な示唆となった。

(一社)漁港漁場新技術研究会

令和6年度は、東電設計株式会社、株式会社協成の2社共同での新規の審査依頼があった「浸透弁」と、更新依頼のあった日本製鉄株式会社より「鋼管杭式防波堤補強工法」と五洋建設株式会社より「海底マウンド礁施工支援システム」について評価証が授与された。

田を感じしバ
ルブが遮断す
ることで、そ
の下流側の配
管が損傷して
も、タンク内
の危険物流出
を防止する。
さらに津波警
報後に元弁を
閉める余裕が
ない場合、管
理者がバルブ

令和6年度 水産公団連 民間技術の
確認審査・評価事業 評価証授与式



「浸透感」は、津波を
高潮・洪水による水圧を
感知し、バルブが機械的
に作動する構造で電動式
のようないかなる構造
の必要はなく、大きさは
手動弁と同等、平成23年
(2011.3.11)の
東日本大震災では、津波
により157基の屋上タン
クが被災し、燃料の流
出により火災が発生し
た。また津波警報時にタ
ンク管理者等が、元弁を
閉めに行ったという記録
もある。この浸透感を元
弁の直近下流に追設する
ことにより、津波等の水
を閉めることなく避難す
ることが可能となる。
鋼管機式防波堤補強工
法は、重力式防波堤の補
強および粘り強い土に資
する工法で、防波堤の港
内側（あるいは港外側の
双方）におけるケーソン
近傍のマウンドに、連続
的に鋼管杭を投じ、ケー
ソンと鋼管杭の間に捨石
等による中詰を施すもの。
台風の大形化等で設計
高さ以上の外力がケー
ソンに作用した場合でも、
中詰（基礎マウンド）
・原地盤を介して鋼管杭
が荷重を負担すること
で、防波堤全体の安定性

を向上させることができる。と同時に、津波の越流による基礎マウンドおよび海底地盤の沈下に対し、鋼管杭の根入部および突出部で外力に抵抗することで粘り強く防波堤の防護機能が確保される。またこの工法は、防波堤背後に航路・泊地を控える箇所や、防波堤堤頭部近く、省スペースな対策が必要となる現場や、防波堤の洗掘対策が難しい箇所において特に有効となる。

海底マウンド構築工法援システムは、ブロック又は石材を用いた海底マ

を低減する投入方式の選択が可能。このシステムに依り、投付材に応じ、施設計画が効果良く立上り、一投毎の実績に於ては、次回投入からの施工計画の見直しで直ちに評価。

評定試験方式終了後、水産庁漁港整備部に於て中村部長、の野事業課長、染川海産振興室長に、評価証授けの報告と技術概要の説明を行った。

令和7年度水産公共関係民間技術の確立審査については、既に審査技術の募集が開始されている。



評価証授与後の集合写真

ウィンド確の製造における
施工計画を支援する
技術におかれの材料を
用いた場合においても適
用可能な散敷・堆積特
性を踏まえた、堆積形状
を考慮可能な、落下挙動
解析により、施工精度
と施工の効率化を図る施
工計画を策定するもの
で、フロック・石材それ
ぞれの材料について散敷